

公表

事業所における自己評価結果

事業所名							公表日	2026年 3月 6日
	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			新築移転したことで、小上がりも広くなり、ゆったりと休息したり、活動が出来たりしている。			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			看護師の人数を増員し、医療的ケアにも十分対応できる体制を確保。			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			新築移転に伴い、車椅子やバギーでも活動しやすい動線や広さを確保し、安全に過ごせる環境を整備しています。	今後も児童の発達段階や使用する機器の変化に合わせて、柔軟にレイアウトを見直すなど、快適な環境づくりを継続していきます。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○						
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○						
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		△			適宜、業務改善は行っているが、システムとしてPDCAサイクルを回すことはできていない。今後、定期的な評価を行い、計画-実施-評価-改善を繰り返して行えるようなシステム作りを行っていく。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○						
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○						
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				×	公式な第三者評価機関による評価は未実施である。しかし、日頃から地域の相談支援専門員や連携する医療機関等と情報共有を行い、専門的な助言を事業所運営や支援内容の改善に活かすよう努めている。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○						
適切な支援の	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○						
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○						
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○						
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○						
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○						
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○						
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○						
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○						

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		△		送迎等の兼ね合いで全職員同席での会議は物理的に難しい日が多いものの、随時の申し送りやノート等を活用し、児童の様子や役割分担の情報共有に努めている。	より確実な情報伝達のため、連絡ツールや記録媒体の活用ルールを再確認し、出勤時間が異なっても全スタッフが漏れなく気づきを共有・振り返りできる仕組み（PDCA）を整えていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		△		送迎時間の違いなどにより全員が揃っての終礼は困難だが、支援記録や申し送りノートを活用し、時間差があっても必ずその日の気づきやヒヤリハットをスタッフ全員で共有・振り返りができる仕組みを整えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○				
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○				
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○				
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○				
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。			×	医療的ケアが必要な児童の安全確保と感染症予防を最優先としているため、地域住民を招いた行事や、児童館等での大規模な交流はあえて控えている。	天気の良い日の近隣への散歩時のご挨拶や、災害時の備えとして町内会への情報共有を行うなど、安全な範囲内で地域に開かれた事業所づくりを模索していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。			△		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。			×	日々のケアでお忙しいご家族の負担を考慮し、参加必須の定例保護者会等は開催していない。送迎時の個別相談や「ひまわりたより」等の定期発信を通じて、情報提供と支援を行っている。	今後は、行事へのきょうだい児の受け入れや、送迎時に保護者同士が自然に情報交換できるような環境づくりなど、ご家族の負担にならない形での交流支援を継続して検討していきたい。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○					
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○				「ひまわりたより」の定期発行や事業所公式LINEを活用し、日々の活動の様子や重要なお知らせを迅速にご家族へ発信しています。	保護者の皆様が日々の合間に確認しやすく、安心やご家庭での対応力向上に繋がるような情報提供を充実させていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○					
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○					
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。				×	医療的ケアが必要な児童の安全確保と感染症予防を最優先としているため、地域住民を招いた行事や、児童館等での大規模な交流はあえて控えています。	天気の良い日の近隣への散歩時のご挨拶や、災害時の備えとして町内会への情報共有を行うなど、安全な範囲内で地域に開かれた事業所づくりを模索していきたいと思います。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○					
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○					
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				毎年4月に災害時にも対応できるよう、「利用者カード」を作成し、保護者様に変更点などを確認し、共有しています。	年1回の確認に加え、年度の途中で服薬内容等に変更があった際もリアルタイムでカードを更新し、全スタッフへ周知漏れが生じないよう情報のアップデート体制をさらに強化していきたいと考えています。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○					
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○					
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				避難訓練実施後に、活動報告と共に改善点・決定事項を紙面で報告させていただいております。	災害時の避難訓練に関する報告に加え、日々の送迎時の交通安全対策や、事業所内での感染症対策・機器の安全管理といった広義の「安全計画」についても、定期的なお便り等で発信し、ご家族との連携を深めていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○					
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○					
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○						